

令和 2 年度病床機能転換事業計画報告書

- 1 病院名： 熊谷外科病院
- 2 所在地： 埼玉県熊谷市佐谷田 3811-1
- 3 病床機能転換概要

転換前病床 機能区分	転換病床数（床）		整備事業 内容	整備事業 開始（着工） 予定年月	整備事業 完了（竣工） 予定年月
	地域包括 ケア	回復期リハ			
急性期	48		該当なし		

転換前病床機能区分は「急性期」「慢性期」等該当するものを記載。

整備事業内容は「新築」「増改築」「改修」「設備整備」の該当するものを記載。

- 4 提供する医療の内容

<p>【転換前】</p> <p>急性期の患者を主な対象とした一般病棟として運営している。手術等の高度な治療の必要な患者を中心に比較的短い期間で入院診療を終了することを前提とした医療提供をしている。</p>
<p>【転換後】</p> <p>回復期の患者を主な対象とした地域包括ケア病棟として運営する。地域の診療所等が医療的管理をしている患者の急変時受け入れとともに、急性期の治療が完了し症状の落ち着いた患者について、在宅復帰を視野に入れて機能の回復、向上を目指した医療提供を予定している。</p>

地域医療を支えていくために圏域で果たす役割、機能

熊谷市及び近隣地域の住民の安心と検討を守るため、救急医療及び専門医療に取り組みとともに、地域医療を支える役割、機能を担う。

新たに担う役割

上記の役割とともに、リハビリテーション機能を強化し、症状の落ち着いた患者について、機能の回復、向上を目指した医療を提供する。

将来の方向性

高齢化の進展に伴い、急性期医療対応とともに、治療後における機能の回復・向上を目指した医療に対する需要の高まりが予想される。これに応えるため、退院後の患者をフォローする機能を合わせ、安心して暮らせる地域づくりに貢献したい。

現在の体制で対応できていない患者と今後の見込み 等

2018年12月より3階病棟(58床)を地域包括ケア病棟として運営しているが、自院の外来からの入院及び一般病棟からの転棟患者が多く、他の急性期病院における急性期後の患者の受け入れは限定的にならざるをえなかった。今後は、4階病棟(48床)を地域包括ケア病棟とすることにより、他院からの急性期後の患者を積極的に受け入れ、機能の回復・向上に繋がるよう取り組みたい。

5 転換後の見込み

届出予定基本診療料施設基準 地域包括ケア病棟入院料1	算定開始予定年月 令和2年10月1日
患者の受入見込み (名称、数値(人数、病床数に占める割合)について具体的に記入してください。)	
【転換前】 令和元年度(4~3月)新入院患者数 692人 ・自院外来からの受入 424人(61.3%) ・急性期病院からの受入 12件(1.7%) ・診療所からの受け入れ 6件(0.9%) ・施設等からの受入 250件(36.1%)	【転換後】 転換後の年間新入院患者数 525人 平均在院日数30日、病床稼働率90% ・自院外来からの受入 210件(40%) ・急性期病院からの受入 131件(25%) ・診療所からの受け入れ 53件(10%) ・施設等からの受入 131件(25%)
医療(介護)連携見込み (具体的に記入してください。)	
【転換前】 紹介元:【病院】埼玉県立循環器・呼吸器病センター、熊谷総合病院、【診療所】くまがやクリニック、松井医院、【施設】有料老人ホーム「あにもの森」、特別養護老人ホーム「いずみ熊谷」 紹介先:【病院】埼玉県立循環器・呼吸器病センター、熊谷総合病院	【転換後】 紹介元:【病院】埼玉県立循環器・呼吸器病センター、熊谷総合病院、【診療所】くまがやクリニック、松井医院、【施設】有料老人ホーム「あにもの森」、特別養護老人ホーム「いずみ熊谷」 紹介先:【病院】埼玉県立循環器・呼吸器病センター、熊谷総合病院

届出予定基本診療料施設基準は「地域包括ケア病棟入院料1」「地域包括ケア入院医療管理料1」等該当するものを記載。

6 医療従事者

職種	転換前の人員（人）			転換後の予定人員（人）		
	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算		実人数	常勤換算
医師	1.0			1.0		
看護師	11.0	4.0	3.2	11.0	4.0	3.2
准看護師	3.0	1.0	0.8	3.0	1.0	0.8
看護補助者	7.0			7.0		
理学療法士	1.0			2.0		
作業療法士	0			0	1.0	0.5
言語聴覚士	0			0	1.0	0.2
放射線技師	1.0			1.0		
臨床検査技師	1.0			1.0		
薬剤師	1.0			1.0		
事務	2.0			2.0		
その他	1.0	1.0	0.8	0	1.0	0.8
計	29.0	6.0	4.8	29.0	8.0	5.5

確保状況・確保策、確保スケジュール

（変動が生じる予定の人員について、確保策等を具体的に記載してください。）

【リハビリ職】

理学療法士 常勤 1名増 院内異動により確保予定

作業療法士 非常勤 1名増 院内他業務（3階病棟等）と兼務

言語聴覚士 非常勤 1名増 院内他業務（3階病棟、5階病棟、外来等）と兼務

【その他】

その他（マッサージ師）1名減 院内異動予定

7 主な病院内施設・設備

転換前	転換後
地域包括ケア病床 <u>58 床</u> 3 階病棟 (地域包括ケア病棟 1) 58 床 急性期一般病床 <u>96 床</u> 4 階病棟 (急性期一般基本料 4) 48 床 ・病室 4 床室 8 室 (急性期一般入院料 4) ・病室 2 床室 2 室 (急性期一般入院料 4) ・病室 1 床室 12 室 (急性期一般入院料 4) 5 階病棟 (急性期一般入院料 4) 48 床 ナースステーション 3 室 機能訓練室 1 室 手術室 2 室 診察・処置室 12 室	地域包括ケア病床 <u>106 床</u> 3 階病棟 (地域包括ケア病棟 1) 58 床 4 階病棟 (地域包括ケア病棟 1) 48 床 ・病室 4 床室 8 室 (地域包括ケア病棟 1) ・病室 2 床室 2 室 (地域包括ケア病棟 1) ・病室 1 床室 12 室 (地域包括ケア病棟 1) 急性期一般病床 <u>48 床</u> 5 階病棟 (急性期一般入院料 4) 48 床 ナースステーション 3 室 機能訓練室 1 室 手術室 2 室 診察・処置室 12 室

(増減が生じる施設・設備は、アンダーライン等でわかるよう記載してください。)

8 医療（介護）連携における課題、問題点

市町村・ケアマネジャーとの連携状況

熊谷市及び地域のケアマネジャーには日々協力いただきながら、必要な情報交換、相談等の連携を取り、良好な関係を築いている。

4 階病棟を地域包括ケア病棟に転換後も、現在の関係を維持し、協力して取り組んでいきたい。

待機患者の状況

現在は病床稼働率が 95%を超えることはほとんどなく、入院が必要な患者は待機なく受け入れることが可能となっている。

地域包括ケア病棟への転換後は、在院日数の長期化により病床稼働率の上昇と待機患者の発生が予想されるが、地域の医療機関との連携、訪問看護の充実等により退院調整の円滑化を図り、需要に応えられる体制を構築したい。

在宅移行

現在は退院時の指導とともに訪問看護によるフォロー体制を取り、円滑な在宅移行をサポートしている。

地域包括ケア病棟への転換後は、退院時の指導及び訪問看護の体制を強化するとともに、将来的に訪問リハビリテーションの実施も視野に入れながら在宅移行のサポートに取り組んでいきたい。